

2023.11.06~2023.11.17

## 与謝野町アベリスツイス高校生派遣事業 事後報告書

福知山高校 1年 尾関真帆

### ● 個人目標

私はアベリスツイスへ行くにあたって、アベリスツイスの文化を知り与謝野町の文化をアベリスツイスの皆さんに教えることができたらいいなと思い、

「**現地の方とたくさん交流をして与謝野町とアベリスツイスの架け橋の1人になれるよう頑張る**」という目標を立てました。

### ● アベリスツイスってこんなところ

低い丘と海に囲まれた自然豊かな場所で、見渡す丘のどこにでも羊がいました。

また、丘に囲まれて目の前に海がある風景がどことなく与謝野町に似ていると

感じました。私はアベリスツイスを

とても好きになって帰ってくるこ

とができました。いつか機会があれば

必ずもう一度行きたいです!!



● ホストファミリーについて



左から

Mary

私

Gwenno

Mary家

お父さん(継父)、お母さん、Mary、弟の四人家族

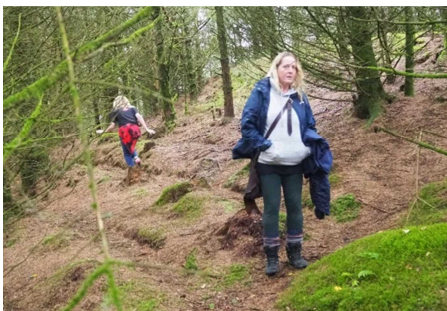
英語の学校に通っている

医者を目指している

日本語たくさん知ってた

お母さんはチリジャムという甘くてスパイシーなジャムを作っている

猫、犬、七面鳥、にわとり、牛、馬、羊、ヤモリ



● Gweeno 家

お父さん、お母さん、兄、Gwenno の四人家族

ウェールズ語の学校に通っている

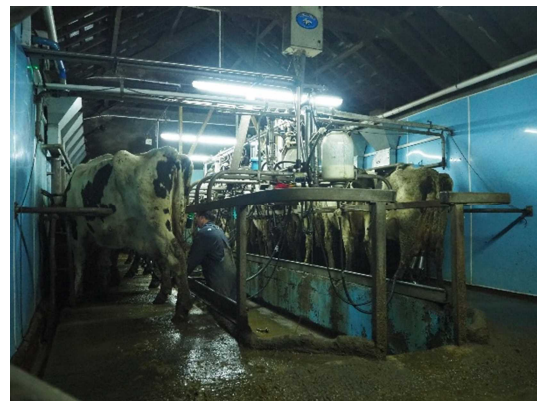
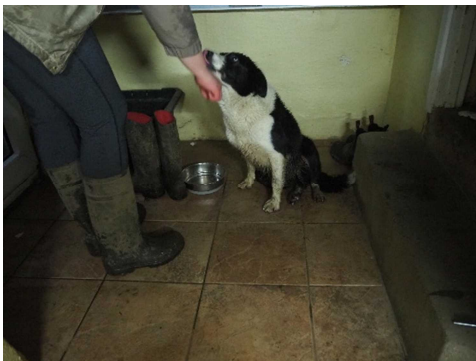
大会でたくさんの賞を取った

ダンス 歌 ピアノとかしている

家族みんな犬が大好き

家は大きな牧場で大きな乳牛を飼っている

犬7匹、にわとり、牛



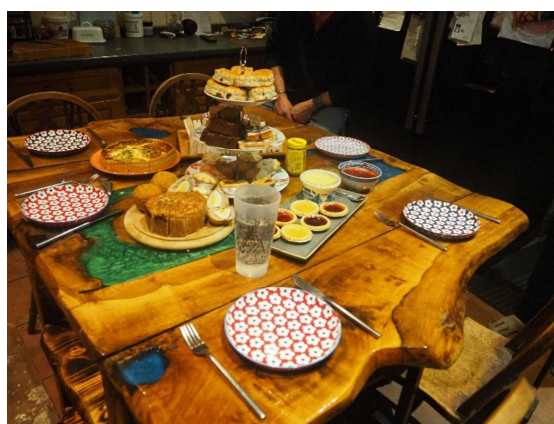
## ● 思い出

### 1. メアリーの家の料理

クランブルっていうリンゴの甘いスイーツをメアリーと一緒に作りました。

また他の日には家の庭にある窯でピザも作りました。

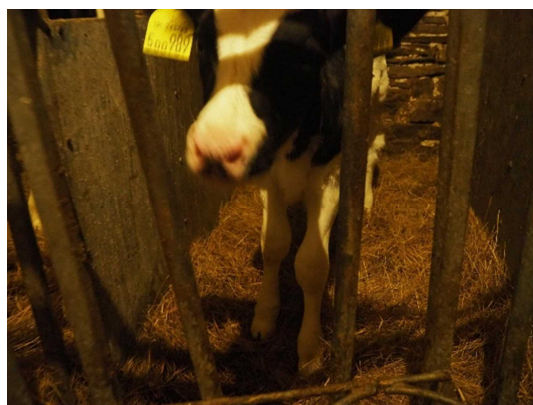
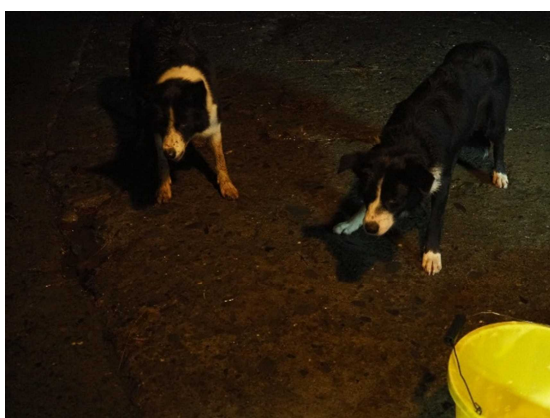
最終日にはみんなでおしゃれなアフタヌーンティーをしました。



### 2. グウェノの家

牧場を経営していて、とても大きな乳牛を育てていました。

よくしつけられた牧場犬を7匹飼っていました。



### 3. スーパー

スーパーの出入り口のところに置いてあり、未来を担う子供への取り組みの中で支援したいところにコイン入れるしくみです。

子供への支援を強めているウェールズ特有の取り組みだなと思いました。



### 4. 移動式遊園地に行った

日本のアトラクションよりもスリルがあり絶叫系のアトラクションが大好きな私でも少し怖かったです。

ここで念願のフィッシュアンドチップスを食べました。お店で買っているときにおじさんが与謝野町からきた人ですか?と声をかけてくれて、多くの人たちが来ていることを知っているんだなと実感し、とても嬉しかったです。



## ● 学んだこと、気を付けたこと

### 1. 海外に行くとき日本で当たり前にしてることが当たり前でない

例えば日本ではいただきますと言ってからみんなでごはんを食べ始めますが、向こうではいただきますという英語がないのでバラバラで食べ始めます。私はホストファミリーにいただきますとごちそうさまの意味を教えて一緒に言ったりしました。

また、国旗を大切に思う心がとても良いと思いました。至るところにウェールズの国旗が飾ってあり、日本では祝日には家の前に国旗を飾るところもありますが、平日には国旗を飾るという文化が少ないです。愛国心が強いなという印象をもちました。

## 2. はっきりと言わないと伝わらない

私は英語があまり得意でなく、翻訳機もずっと使える訳じゃなかったの  
で会話は少し大変でした。わからなかったり聞き取れなかったことはち  
ゃんともう一度言ってもらおうよう頼んだり、知りたいことがあったら  
すぐに聞くようにこころがけました。また、向こうの方々には曖昧な返事  
をしても伝わらないことがありました。しっかり返事をして自分の意思  
を伝えることが大切だなと感じました。

## 3. 向こうの文化を教えてもらったなら日本のことも教えてあげる

いただきますの話と同様に、教えてもらったことと日本を比較して、日  
本ではこうしてるとかこういうものがあるっていうのを伝えることを心  
掛けました。例えばウェールズのお城に行ったときに日本のお城の写真  
を見せました。ウェールズのお城は塔のようで石によって作られており、  
全く違う日本のお城をカッコいいって言ってきてとても嬉しかったです。

これらは、自分自身が日本や与謝野町の文化をしっかりと理解をしてい  
ないと、相手に紹介することはとても難しいと感じました。互いの交流  
のためにもまずは**自分の知識**を確認しないといけないと思います。

- フランクエバンスさんの思いを受けて

アベリスツイスでのマーチに参加して、戦没者の方の名前が多く読み上げられる時に、戦争はとても悲惨なものであり、二度と繰り返してはいけないと改めて強く感じました。大人ではなく私たち高校生という若い年代が与謝野町の代表としてアベリスツイスに行ったということが無駄なものにするのではなく、必ず自分達の後の世代に語り引き継いでいかなければならないと思います。与謝野町とアベリスツイスの若者が交流を通して異国の文化を知り、親しみを持ち、互いに尊敬し合うことで戦争のない世界に近付いていけたらいいなと思います。





- まとめ

アベリスツイスでの交流は素晴らしい経験でした。文化や習慣に触れることで新しく視野が広がり、現地の方との交流から深い相互理解ができたと思います。相互理解もそう簡単なものではなく、お互いが歩み寄ることによってできたものだと思うのでとてもいい研修になりました。また、日本とは異なる文化の美しさに触れ、自分の考え方や価値観を見つめ直すことができました。初めての海外で不安がたくさんありましたが、不安を上回る楽しさを感じることができました。私は今でも SNS を通じてホストファミリーと交流をしています。この交流を途切れさせることなく、ずっと続けていけたらいいと思います。そしてこの派遣事業も途切れることなく、与謝野町とアリスツイスに住む人たちとの交流がいつまでも続くことを願っています。

# アベリスツイス高校生派遣事業研修報告

宮津天橋高校加悦谷学舎 1年 西村 れい

## ◎交流のきっかけ

第二次世界大戦の際、旧大江山ニッケル鉱山にて捕虜であった故フランク・エバンス氏が終戦後加悦町を訪問したことをきっかけに交流が始まりました。「二度と戦争をしてはならない」との思いを伝えられました。

## ◎研修に参加するにあたって

私はもともと海外に興味があり、実際に他国の文化を身近に感じてみたいと思い参加させていただきました。事前研修で与謝野町とアベリスツイスの交流やフランク・エバンス氏の存在を知り、現地の研修で次のことを目標としました。

- ① 自分から積極的に行動を起こす。
- ② 与謝野町のことを現地の人々に知ってもらい、アベリスツイスのことを知る。
- ③ 風景や文化、人々など全力で楽しむ。

## ◎アベリスツイス

イギリスのウェールズに位置する、海や丘など自然が美しい町です。大学もあり留学生も多くとっているそうです。羊の数が人口より多く、移動の時は必ず目にしていました。



◎ホストファミリー

## Houghton 家



Jon

Louise

・笑顔が素敵なお父さん    ・よく話しかけてくれるお母さん



Alae

Harry

・ Harry の弟さん  
ランニングが好き

・ 紳士なお兄さん  
音楽が好き



ルビー

・ 牧羊犬の女の子

## Rukov 家



### Lulin

- ・日本が好きなお父さん

### Blaga

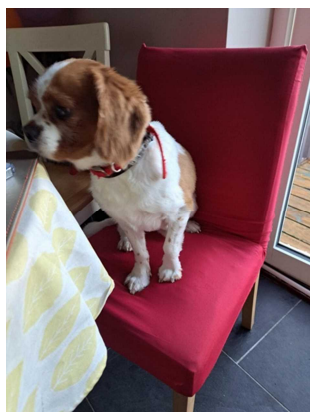
- ・陽気で明るいお母さん

### Ivan

- ・心優しいお兄さん  
水泳をしていて金メダル獲得🏆

### Denis

- ・優しくて可愛らしい弟さん  
ゲーム好き



### Charlie

- ・人懐っこいわんちゃん

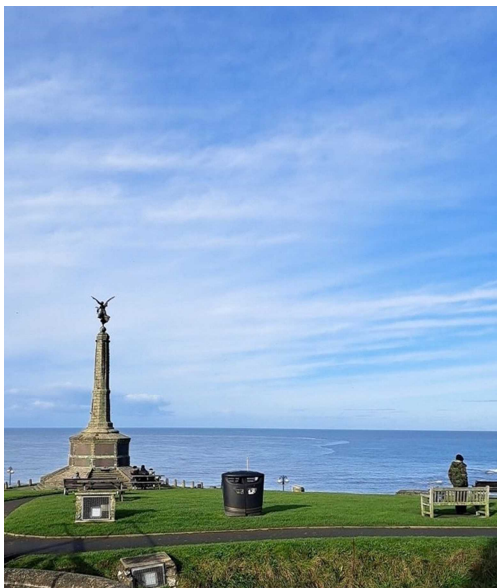
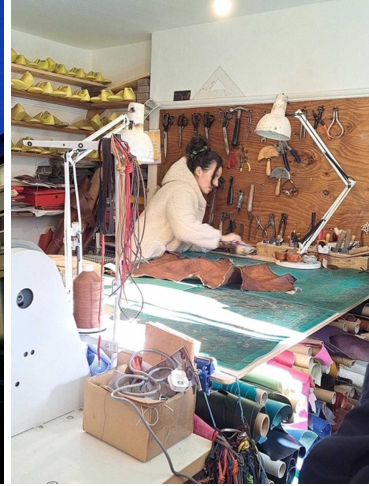
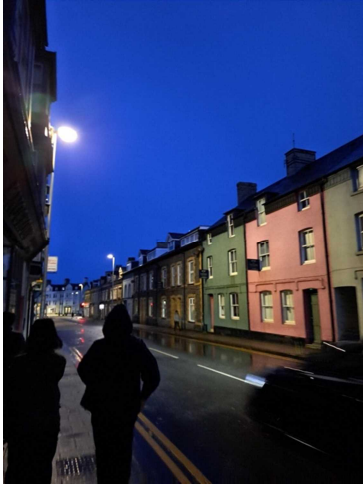
ホストファミリーの皆さんとの交流を通して、皆さんの優しさに心温まりました。

英語が特別得意な訳でもなく交流まで「会話になるかな」と不安でしたが、いざその時が来ると相手が私のペースに合わせてくださったりしたので落ち着くことができました。交流の中で、日本のお菓子やお茶を渡したりしてお互い楽しめたと思います。

交流の中で、「クリスマスはスリッパを渡すんだよ」と教えてくださったことで他国の文化に触れることができたと感じ嬉しかったです。

日常の様々なところで意見を求められることが多く、自分の意見ははっきり言わないと伝わらないと感じました。

◎訪れた場所







## ◎研修を終えて

アベリスツイスってこんなところなんだと聞くだけではなく実際に行くことで良さを自分で感じ取れる他、人に伝えていきやすいなと感じました。向こうの方々が私たちが歓迎してくださってアベリスツイスについてもっと知りたいと思いました。フランク・エバンス氏の言われていた通り両国の高校生が交流することによって互いに関心を高め、平和の架け橋となっていけばいいなと感じました。この研修で現地の日本人の方ともお話しさせていただき、将来の職業の幅が広がりました。自分がしてみたいと思ったことは、どんどん率先してやっていきたいです。そして、この思いを忘れることのないよう日々過ごしていきたいです。また、今回ホストファミリーとして受け入れてくださった方々や約二週間共に過ごした方々との繋がりも大切にしていけたらなと思います。